

# 四国八十八か所遍路旅（うち徳島発心の道場 23 札所）

斉藤 整紀

## はじめに

四国遍路通し打ち 1,132 kmのうち徳島県内「発心の道場」23 札所約 220 kmをこの夏に「区切り打ち」巡礼する。春と秋が適期と云われるが、妻の仕事の都合から取敢えず厳しいこの時期に着手する。他、高知県 16 札所、愛媛県 26 札所、香川県 23 札所は別の機会、別の季節に歩きたい。

●日程：2021 年 7 月 29 日～8 月 7 日

●メンバー 斉藤整紀（CL）・さち子（妻）

●7月29日（木） 晴れ

羽田 12:45（JAL）⇒13:55 徳島阿波おどり空港（タツ-）⇒①霊山寺→旅館「大鳥居苑」（泊）

※以下文中の○内は札所の番号 11 千歩  
コロナ厳しい昨今ながら、飛行機はほぼ満員。空港から 1 番札所まではタツ-。水の都徳島は、川、橋が多く、車窓からは蓮根の栽培が目立つ。発願の寺霊山寺駐車場脇が遍路用品の店になっており、事前に揃えなかった金剛杖、蠟燭・線香入れ、ライターなどを購入。係員から諸注意があると思ったが、こちらから尋ねた以外話はない。

まず山門前で、白衣、輪袈裟を整えて、蠟燭、線香、チャック、納札、お賽銭、経本、念珠を二人分揃え出発。山門で一礼、金剛杖とザックを置き本堂、大師堂の順に巡礼。日盛りで汗が全身を襲う。読経の声は上ずり、動作もぎこちないが何とか済ませ、納経所を兼ねる最初の売店に戻り、御朱印を願う。大小 2 人分 2 冊 600 円、私のは大きく重い。とにかく一式済んで、今夜の宿へ。

大鳥居苑は山門脇の通りに入ってすぐ。早めに入浴、洗濯を済ませる。食事付一人約 1 万円は遍路宿としてはやや贅沢。旅館、民宿、宿坊は 7 千円前後が一般的。やはり料理全般が美

味！

●7月30日（金） 晴れ

●大鳥居苑→②極楽寺→③金泉寺→④大日寺→⑤地藏寺→⑦十楽寺→⑥安楽寺（泊） 28 千歩

今日は、低地密集で件数を稼げるコース。地図、標識で確認しながら進む。田舎の細い舗道が多い。金泉寺への田中の畦道はマムシに注意しながら進む。山門で歩みを止め、日陰を求めて身支度をするが汗みどろ、経本の文字が見えない！ここから大日寺への山の辺の道はある意味、遍路道らしい丘や竹藪や墓地を通る土の道である。小高い丘に広々と伽藍が並ぶ大日寺は車での参拝客も多い。巡礼を済ませた所に住職が現れ、妻に「その靴で焼山寺は無理！」と忠告あり。私は、二人の靴はミズノの軽ハイク用のもので実証済と釈明したところ、今度は「水は 2ℓ必要」と有難いお言葉を頂いた。地藏寺への途中、昼食用の「フジムラベーカーリー」が見当たらず、難儀した。

7 番十楽寺は午後しか御朱印が頂けないと、安楽寺の宿坊の情報があったため、まずこちらを巡礼してから、6 番安楽寺に向かった。温泉山安楽寺は今回泊まる唯一の宿坊で、温泉が出る。夜のお勤めもあり本格的。お勤めの最後に仏像の案内があり、当世一の仏師で人間国宝・松本明慶氏の代表作「阿弥陀如来坐像」も拝観。夜に安楽寺併設の売店で土産を買い、不用品を宅配した。

●7月31日（土） 晴れ

●安楽寺→⑧熊谷寺→⑨法輪寺→⑩切幡寺→うどん亭「八幡」（昼食）（タツ-）⇒⑪藤井寺→旅館「吉野」（泊） 30 千歩

真夏の舗道歩きは辛い。オリンピック競歩選

手を思いやる。炎天下、8km歩いての9番法輪寺。門前の飲食店は廃業、しかし隣の茶屋に救われた。店主の声に誘われ、カキ氷！ポットに氷をもらい、地区有名なうどん店「八幡」を聞いた。

切幡寺を済ませ「八幡」を目指す。道を聞くにも歩いている村人はいない。ようやく田んぼのご老人に救われた。賑やかな車道に面した「八幡」は本格的なうどん店で、しっかりした昼食が摂れた。すでに12kmを歩いた足には吉野川を越えて藤井寺まで歩くのは辛い。夕ツで向かい、明朝を勘案、11番の巡礼を済ませてから「吉野」へ。宿のご主人は親切にも、行動食、飲み物購入に、近くのスーパーまで車で付合ってくれた！

●8月1日(日) 晴れ

●吉野 7:00→藤井寺・焼山寺登山口 7:10→浄蓮庵 13:00→15:40⑫焼山寺→焼山寺不動尊前(夕ツ)⇒神山温泉「四季の里」(泊) 31千歩

いよいよ遍路ころがし、3分の2脱落と云われる焼山寺に挑戦。3宿同宿の学生さんに別れ。私以上に脂肪が乗って来た妻のスタミナを気遣い、休憩、水分補給に気を付ける。樹間の山径は整備され、涼しく歩き易い。しかし歩き慣れない妻に合わせた結果、標高差700m、距離9km、3つ目のピーク浄蓮庵まで6時間を要した。ここには弘法大師立像もあり、焼山寺間近と連想された。しかし山の常識と弘法大師の歩かれた道は違っていた。ここから一気に350m下の里まで下り、川を渡り、新たな山に登り返す。標識には「遍路ころがし焼山寺まで6km」とある。それまでにない厳しい坂道で6kmは困難。御朱印時限に間に合わないかも！地図ではその半分のはず！ここは私が本気で先行して確認するしかない。急坂を1時間一気に登り、緩やかに変わった所に「焼山寺1km」の標識が出て、安心して妻を待った。程なく焼山寺の真新しい石柱塀の境内が現れ、車道と駐車場も姿を

現す。更に700m先にようやく本堂に至る。ついに午後4時前に巡礼、御朱印が無事に済んだ。

しかし御朱印では不快な思いをした。奥に2人の僧がいて、私が何度も声を掛けても「盆休みどうする？」等私語に夢中で出て来ない。更に声を掛けて、ようやく窓口に座ったが、詫びや慰労の言葉もなく、「何人？歩き？車？」と事務的な質問責め。ここでは実際に巡拝した人数分しか御朱印を書かず、恩着せがましい態度！先の当寺への電話照会で「宿坊は止めているので6時間下の宿に泊まってください」とあっさり言われた。また、そんなことがあってか、毛筆も塗りたくって筆は走っていないように見えた。境内の豪華な造作から、有力な篤信家が多いことで、僧の目が曇ってきたのではなかろうか！？

何はともあれ、今回の最難関をクリア、下山は夕ツを頼んだ。温泉ホテルは一人1万5千円、他の宿の2倍相当で、宿泊満足度は当然高い。

●8月2日(月) 晴れ

●四季の里→神山温泉前(バス)⇒日和田(セブソルブ)で補給→⑬大日寺→名西旅館「花」(荷物デポ)→⑭常楽寺→⑮国分寺→⑯観音寺(車)⇒名西旅館「花」(泊) 17千歩

焼山寺の疲れを勘案、朝ゆっくりの出発とバスで舗道歩きを削減。大日寺の1つ手前のバス停で降り、コンビニで買い物。次に大日寺の巡礼が済み、遍路みちに入ると、すぐ今夜の宿「花」が見える。午前中だが、荷物のデポを依頼すると快くOKで、あまつさえ「夕方、迎えに行ったら、明日は次の札所返送る」とのこと。そこで身軽な舗道歩きで東へ。それでも足が焼ける仄ファルトの舗道歩きは続き、観音寺まで終え、迎えを頼む。

●8月3日(火) 晴れ

●旅館「花」(車)⇒⑰井戸寺→府中(こう)駅⇒徳島駅(昼食)⇒南小松島駅→⑱恩山寺→民宿「ちば」(泊) 15千歩

「花」のご主人は、鮎喰川の流れて下り、次の井戸寺まで送ってくれた。そこにあの学生さんに再会！昼用にメロンパンを差し入れ、写真の交換を行う。井戸寺の次はJR府中駅を探す。遍路道と違い、駅への表示はなく、他人に聞き、線路から覗いて、何とか辿り着いた。

徳島駅で休憩し恩山寺最寄りの南小松島駅まで乗った。駅前で観光課の女性が地図を出して、恩山寺への道を示してくれた。恩山寺入口の民宿「ちば」は、蟻難！お菓子の蟻が群がり驚く。

### ●8月4日（水） 晴れ

●ちば→⑱立江寺→立江駅⇒南小松島駅（徳島バス）⇒生名（道の駅で買物、宅配）→旅館「金子や」（泊） 23千歩

当初、宿泊は立江寺近くに予約したが、素泊まりのため、食事が付いてバス始発の西小松島駅近くに予約を変更。しかし、第二の難関コースを前に、早めの出発がよからうと登山口に再変更。

朝、民宿から立江寺まで歩き、巡礼後、JR立江駅から南小松島駅へ行く。今度は男性の観光課の案内で、バス時間までの駅周辺の観光ルート聞いた。港、SL広場、赤レンガの排水路などを観た後、当地名のラーメンを戴いた。バスで40分後、生名バス停近くの道の駅で物資調達、お土産を購入し不用品と合わせ、二度目の宅配。

「金子や」は、格安で食事やサービスも質素！

### ●8月5日（木） 晴れ

●金子や→⑳鶴林寺→㉑太龍寺（0-7°UII）⇒山麓駅→和食東（バス）⇒山口中→旅館「山茶花」（泊） 30千歩

第二の難関コースである。今日は2つの山のピークにある札所のため分かり易い。まず鶴林寺はいきなり真っすぐな急登が続く。コンクリを流した径などで歩き易い。長い石段を登り、巡礼を済ませ、いざ下山となったら、上りと一

変、急で危険な悪路が続く。悪い靴ならば足をやられかねない。ようやく下り切り、次の太龍道に続く永井橋の袂に、何と自販機が残っていた。コーラはこんなに美味しかったのか！

太龍寺への登りは、前半は歩き易いなだらかな径が続く。しかし後半は急坂となる。草臥れた頃、右手に曲がり、広大な境内に入る。ここと室戸岬は弘法大師が一心不乱に勤行したと『三教指帰』に記される特別な道場とか。杉、ヒノキの大木、伽藍、塔頭などいままでの札所よりランクが高いのは瞭然！深呼吸して巡礼を済ませた。

先に同宿の車遍路の方から、ここの0-7°UIIは利用価値あり、と勧められたため乗ってみる。高さはないが2775m、中ア駒より長い。途中、左に弘法大師の座禅像が眺められる。下山後、0-7°UII職員お勧めのバス停まで歩いた。日盛り20分先のバス停表示板の陰に妻が屈んでいると、乗用車の女性が「送りますか？」と声を掛けてくれた。有難かったが、「もうすぐバスがきますので」と断った。平等寺方面への分岐で下車、平等寺迄3km程と云われたので歩いた。しかし、あと少しで草臥れ、宿へ迎えを依頼。「0-7°UII山麓駅までだって迎えに行ったのに！」と女主人。かの学生さんも前日ここに泊まったらしい。

### ●8月6日（金） 晴れのち一時雨

●㉒平等寺・山茶花（車）⇒新野駅⇒日和佐駅→㉓薬王寺→日和佐駅⇒徳島駅⇒眉山0-7°UII、阿波踊り会館、ｲﾝﾀｰ「スガッチィー」（夕食）（夕㉔）⇒ホテル「プラザイン徳島」（泊）15千歩

宿と平等寺山門は隣接しているので、朝食後すぐ巡礼し、朝の電車時刻に間に合うように宿の女主人に駅まで送って頂いた。薬王寺は日和佐駅からもエンジン色の瑜祇塔が目立つ。最後の巡礼は高台の展望台からの海景が素晴らしい！

電車で徳島駅に戻り、観光を楽しみ、雑誌のｲﾝﾀｰで久しぶりにリッチなワイン付ディナー。

午後と夜、珍しく、にわか雨が降った。

●8月7日(土) 晴れ

●ホテル(妙子)⇒徳島駅(バス)⇒大塚国際美術館(鑑賞、昼食)⇒鳴門うずしお観光船(バス)⇒鳴門公園展望台(バス)⇒徳島駅(バス)⇒

徳島空港(JAL) 20:25⇒21:45 羽田

鳴門公園、空港利用なら徳島バス1日券1,000円がお得と勧められる。大塚美術館は話題性から1度観たかったが、2度目はないだろう。入館料3,300円、昼食の海鮮丼1,800円、アイスコーヒー500円は高く、不満足!2度と来る気にならない。入場者はさほど多くないのにざわつき、単なる偽物の陳列場。現地満員のルーブル、オルセイ、システイナ礼拝堂等のしっとり感が全くない。足立美術館の足元にも及ばず。

美術館から少し下りた船着場からうずしお観光船が出る。干潮間もなくの出航で楽しめた。その後、バスを乗り継ぎ、鳴門海峡、大鳴門橋、淡路島が見渡せる展望台へ。好天、絶景に恵まれた。

徳島駅に戻り、瀬戸内寂聴さんの生家の「瀬戸内仏具店」に寄り、御朱印帳とお線香を買う。帰りの飛行機も、台風の影響もなく順調に帰宅出来た。帰宅後今回分を纏め、次回に生かしたい。

## 終わりに

1. 遍路旅: 夏にコロナ禍が重なったこともあり、歩き遍路は少ない。我々が会ったのは、卒業旅行に45日通し打ちという学生一人だけで、乗り物利用者は十数人会ったが、絶対数は多くない。我々は健康管理上、適宜、公共乗り物を併用。

2. 身支度: ①帽子 妻は登山帽の鍔の大きいもの、私は水を掛け乍ら使うハットを使ったが、特に問題はなかった。正装の菅笠はこの時期、風通しが良く涼しいが、重いことと、視界が狭

まり、標識を見落としがちで見上げるのが難儀とか。

②靴 案内書にハイキング用の踝の隠れるものを勧める記述があるが、我々は「ミズノ」のハイク用スニーカーがベターと思う。事実、山登りは快適で、舗道歩きも問題なし。③ザックと中身 私が40ℓ、妻が30ℓにフルに入れて歩いたが、不用品が多く重い。2度、不用品を自宅に宅配した。衣類は洗濯可能なため2セットのみでOK。水は山中を除き途中補給可。中身を吟味すべし。

3. 同行二人: 弘法大師より妻との二人旅が便利。札所に着き、白衣等を整え、線香を灯し、読経までの所作、用具管理等分担が好ましい。そもそも道中、地図と道標チェックも複数が望ましい。

4. 自販機・コンビニ・スーパー・食堂等: 夏の遍路旅には貴重ながら昨今の利用者減少が祟り、撤廃が相次ぐ。案内書に記載分も消滅している所がある。札所の自販機も例外ではない。買える時の適宜備蓄が肝要。遍路道でトイレは何とかなるが昼食は車道以外店が少なく携行品頼み。

5. 風景: ①山並みは、北に讃岐山脈が連なり、南西に剣山地の前衛の山々が望める。中でも高越山1,133mは秀麗で「阿波富士」の名に相応しい。徳島市のシンボル眉山290mは存在感あり。②川は大河吉野川や鮎喰川などに沿い渡る。③田畑は、徳島市はレンコンが目立ち、奥に入るとサトイモ、オクラ、鳴門金時等。稲は青々している物、開花中の物、収穫間近の物等様々。④山里では、すだち、梅、柿が目につく。

6. 村人: 案内書には、地域の人とコミュニケーションを積極的に取るように書いてあるが、まず道を歩く人はいない。お接待どころか道を聞く人もいない。店があれば聞けるが、遍路道には店も少ない。

7. 味覚: 鯛の刺身とタコが美味しい。またスダチは何にでも掛けるが美味しい。スダチ酒や飲み物もさっぱりした甘さが良い。鳴門のワカ

メ、練物も美味しい。温泉ホテルで、鯛とワカ  
メのお椀が具たっぷりて堪らなく美味しかった。  
(了)